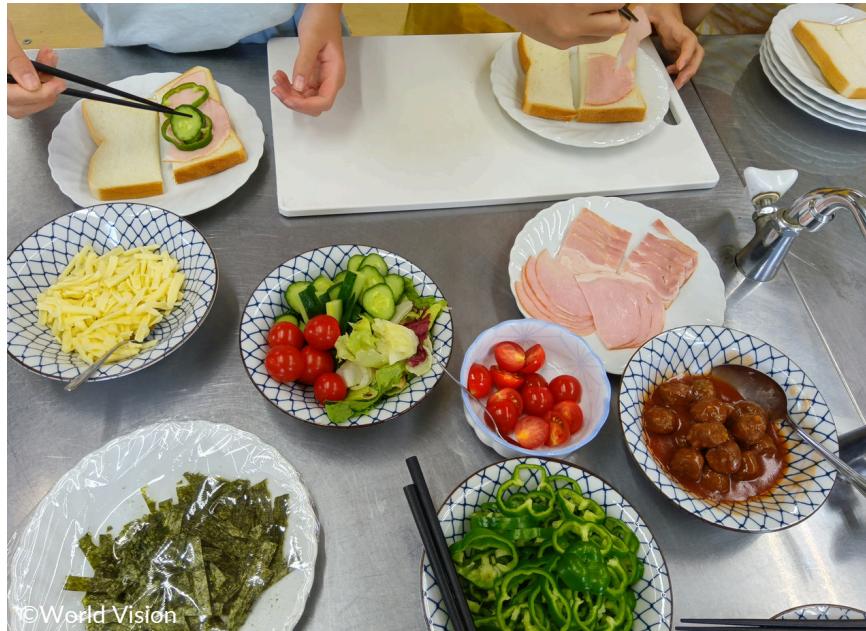


特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

国内子ども支援の現場から

「みんなのへや」 夏休みの様子

ワールド・ビジョン・ジャパンが日頃から行っている子どもの居場所「みんなのへや」。今年も夏休み中は時間と回数を拡大して開催しました。2か所で合計10回開催し、延べ108名(子ども90名、おとな18名)が参加しました。8月末には恒例の夕涼み会も行い、楽しい思い出がまたひとつ増えました。



好きな食材をたっぷり選べるランチクッキング（オープンサンド）

～みんなでつくる「みんなのへや」～



©World Vision

最終日は恒例のたこ焼きパーティ

夏休みなどの長期休み中は、週2回、昼間から開催している「みんなのへや」。調理室がある会場では、ランチクッキングが恒例となっています。到着してすぐに「今日のメニューは何？」と聞く子も多く、楽しみにしてくれているようです。メニューは様々ですが、**食材は自分で好きなものを選べるのが「みんなのへや」スタイル**。去年は食べられなかったものが大好きになった子がいたり、お互いにオススメのトッピングを教えあったりと、食材選びの時間にも笑顔が生まれます。最終日のたこ焼きパーティでは、色々な食材をたっぷり入れるオリジナルのたこ焼きを、自分たちの分だけではなく私たちスタッフにもふるまってくれました。

現在「みんなのへや」には、小学校低学年から高校生までの多年齢の子どもたちが参加しています。「みんなのへや」でしか顔を合わせない子ども同士も多いなか、年上の子が年下の子をさりげなく気遣うなど、この夏は特に子どもたちの優しさを感じる場面が多くありました。スタッフが特に声を掛けなくても、自然とみんなが気持ちよく過ごせるよ



©World Vision

今年はチーム戦でのUNOが大流行

うな「みんなのへや」を子どもたち自身が作ってくれています。そんな「みんなでつくるみんなのへや」の雰囲気をこれからも大切にしたいと思いました。



子どもによる力作「びっくり箱」

～2回目の夕涼み会は、ますますパワーアップ！～



©World Vision

みんなで声を掛けながらのスイカ割り
(左側2名はインターンの大学生)

8月末に「みんなのへや」2回目の夕涼み会を開催しました。いつもの室内遊びに加えて工作コーナーを準備し、中庭でヨーヨー釣りや初めてのスイカ割り大会、夜は花火も行いました。

スイカ割り大会は、低学年の子どもたちは恐る恐る慎重に、高学年の子どもたちは元気に勢いよく！少しずつスイカが割れるたびに、大きな歓声が上がりました。

夕食は、昨年大好評だった子ども食堂「あーちのめし処」さんに今年もお願いし、焼きそばやフランクフルトなどを作っていました。皆で割った甘いスイカと一緒に、夏らしさ満載の夕食会となりました。



©World Vision

焼きそばはもちろん、きゅうりの浅漬け
も大人気でした

夏休みを利用してWVJにインターンに来ていた大学生の方々が、計2回「みんなのへや」に参加しました。夕涼み会ではスイカ割り大会の企画と進行を担当、工作やゲームなどで一緒に楽しい時間を過ごしたので、子どもたちからは「次はいつ来てくれるの？」と聞かれていました。

大学生の方々からは、「自分が子どものころにみんなのへやがあったら絶対に利用したかったです」「もっとたくさんの子どもたちに知ってもらい、利用してもらいたいですね」といった感想をいただきました。

今年も町会会館を貸してくださった塔ノ山町会の皆さんをはじめ、夕食提供では「あーちのめし処」の皆さんに、ボランティアとして中野区の若者の居場所「まごころドーナツ」の皆さんにご協力いただきました。地域の皆さまの温かなサポートのもとで夕涼み会を開催でき、子どもたちが楽しい時間を過ごしてくれたことに感謝の思いを新たにする一日でした。



©World Vision



©World Vision

天候に恵まれ、花火をゆっくり楽しむことができました

～スタッフからひとこと～

「みんなのへや」の夏休みは今年で3回目、夕涼み会は2回目の開催となりました。どんなことを準備すれば子どもたちが安全に楽しく過ごせるか、スタッフは毎年早い時期からミーティングを重ね、準備を進めます。試行錯誤を繰り返す中で感じるのは、いつも最後は子どもたちが、私たちスタッフが思いもよらない形で「みんなのへや」に様々な彩りを加えてくれる、ということです。子どもたちの豊かな発想を大切に、楽しい時間や体験が生まれる「みんなのへや」をこれからも続けていきたいと思います。 (須田・山下)

